



令和6年度長岡小 教育課程 全体構想図



学習指導要領の重点

- 社会に開かれた教育課程の実現
 - 「カリキュラムマネジメント」の推進
 - 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善
 - 生活科・総合的な学習の時間の充実
- 内容ベースから資質・能力ベースの学びへの転換
- ICTを活用した授業実践
- 道徳科、外国語科・活動の推進

学校教育目標

みんなが力のつく楽しい学校 ～自立・共生～

めざす子供像

学びをつなげ、仲間とともに粘り強く課題解決する子供

子供の実態

- 明るく、屈託がなく、外遊びを好む児童が多い。
- 興味関心があることには大変意欲的に取り組む児童が多い。
- 自分たちで主体的に話し合ったり行動したりし、協働して解決に向かっていくことに課題がある。
- できそうなことには意欲的に取り組むが、初めてのことや難しいことには躊躇したり途中でやめてしまったりすることがある。

子供たちに身に付けさせたい力

- 1 知識・技能を活用したり、理由をつけて自分の考えを表現したりする力
- 2 相手の気持ちを考え、場面や状況ごとに判断し、行動する力
- 3 心身の健康を育み、最後までやり遂げる力

山形県第6次教育振興計画

人間力に満ちあふれ、
山形の未来をひらく人づくり

<テーマ>

つなぐ ～いのち・学び・地域～

- 「いのち」をつなぐ人
- 学びを生かす人
- 地域をつくる人

広い視野と高い志をもって
(全体を貫く基本姿勢)

今年度の経営方針と重点

0 教職員の姿勢

自立…考える場面を数多く仕組み、自己選択、自己決定を大切にする。

共生…自己受容・他者受容の機会を大切にし、多様性を認めていく。

| | |
|------------|----------|
| 子供の可能性を信じる | 待つ・聴く |
| 授業で勝負する | 疑問形で指導する |

1 知識・技能を活用したり、理由をつけて自分の考えを表現したりする力を育てるために

- ① 家庭と連携し、宿題や自主学習に進んで取り組む子供を育て、知識・技能を確実に定着させる。
- ② 1日1場面、授業の中に、理由をつけて自分の考えを話したり、表現したりする活動を仕組む。
- ③ 朝学習では、学力テストの類似問題に取り組ませ、課題解決力を高めていく。

2 相手の気持ちを考え、場面や状況ごとに判断し、行動する力を育てるために

- ① いじめに係る具体的な場面を取り上げ、相手の気持ちを考えさせる。
- ② 避難訓練では様々な状況を想定し、その状況ではどんな行動が最適か考えることができるようにする。
- ③ 学校生活を充実させるために自分たちが実践したいことを考え、自主的に行動することができるようにする。

3 心身の健康を育み、最後までやり遂げる力を育てるために

- ① 体育的行事を通して、体力の向上を図る。
- ② 発達段階に応じた保健指導を進め、心身の健康づくりに役立てる。
- ③ 楽しい給食を通して正しい食事の仕方を身に付け丈夫な体をつくる。

地域等の実態

- 核家族が多い。
- 商店が多く、南側には立谷川工業団地がある。
- 幼稚園・保育園や創学館高校などが学区にあり、交流が図りやすい。
- 公民館が近く、定期的に児童対象の行事なども行われている。
- 読み聞かせや生活科・総合の講師等について協力的である。

天童市の教育

「自立・共生・創造」
未来を描き、問いを立て、
解決・創造する力を育む
学校教育
～物事を深く思考し
論理的に
伝える力の育成～

- 輝く「いのち」育みプロジェクト
- すこやかな「まなび」育みプロジェクト
- 豊かな「こころ」育みプロジェクト

保護者、地域の願い

- 一人一人の子供に確かな学力をつける「わかる授業」を行ってほしい。
- 個に合った支援をお願いしたい。
- 一人一人の子供の存在を大切に、親身になって対応してほしい。
- 一人一人の可能性を引き出し、鍛え、伸ばすとともに、親と子と共に学び続ける教師でいてほしい。

地域とのネットワーク

PTAとの連携

- ・保護者面談の実施
- ・授業参観、学級懇談会の開催
- ・保護者アンケートの実施
- ・PTA活動の充実
- ・学校だよりやホームページ・メール配信による情報の公開

地域社会との連携

- ・学校評議員会・いじめ防止対策委員会の開催、学校評価の活用
- ・地域の教材化
- ・地域の施設や団体の活用
- ・公民館、地域人材、子ども見守り隊、学校サポーターとの連携
- ・よつば学童との連携

幼保小中等との連携

- ・幼保小連絡会の開催(年2回)
- ・三中学区連絡協議会の開催と情報交換
- ・授業交流の実施
- ・スタート・カリキュラムの推進
- ・キャリア教育の視点からの連携
- ・創学館高校、羽陽短期大学との連携